

2010年 8 月 4 日発行

Vol.51

ろ ん ど

長崎県音楽連盟事務局

〒850-0056 長崎市恵美須町4-5

NBC第3ビル2F

Tel.&Fax095-820-1081

ホームページアドレス <http://www.n-rond.jp>メールアドレス nma@onyx.dti.ne.jp

左より菅家恭子/ヴァイオリン、池田文子/ヴィオラ、川口千穂/ヴァイオリン、光田聡子/チェロ(7/10)

マダムカルテット

マダムバタフライは、長崎にはなじみの言葉だが、「マダム」という表現を最近あまり聞かなくなった気がする。以前、有閑マダム(有閑夫人)という表現が流行ったこともあったが、最近では高級なものを身につけて、自由に自分の人生を楽しむ女性は、セレブなどと呼ばれたりしている。しかし、マダムはやっぱりマダム。ヤンママや、ギャルママ、マモデル等とは明らかに品格が違う。

7月10日の「第9回長崎リハビリテーション病院ラウンジコンサート」に、マダムカルテットが登場した。この日は、県オペラ協会の皆様も6人出演され、全員が女性。会場はまさしく、「マダムがいっぱい」で、何ともあでやかな雰囲気につつまれた。

バイオリンの菅家恭子さん、川口千穂さん、ヴィオラの池田文子さん、チェロの光田聡子さん、熟女4人によるアンサンブルによる、モーツァルトのディベルティメントも、「愛の賛歌」も「北の宿から」も、味わい深いものだった。

音大を卒業して、気の合った仲間とユニットを組んでの音楽活動もちろん結構だが、結婚、出産、子育てを経てそしてまた仲間とアンサンブルで演奏をする。我々の音楽活動の一つのあり方だと思う。西洋音楽史を振り返ってみても、弦楽カルテットは、日常生活の様々な場面で、気楽に楽しまれてきた演奏形態だろう。皆さんの今後の活躍に、心からエールを送りたい。

当日、会場にいらしたNIBの倉増さん(音楽連盟理事)の言葉。「病院コンサートで、こんな雰囲気もなかなかいいね。みんなが知っている曲が選ばれているし、編曲もちゃんとしている。街中に、もっと普通に音楽が溢れたらいい。長崎は、それが似合う街だから」。まさにその通りです。音楽連盟はそのための音楽活動を、これからも地道に続けていかなくてはならない。帰り道、雨に煙る仲通りを歩きながら、ふとそんなことを思った。

(文：堀内伊吹 写真：西村真理子)